
二次創作小説 1

七瀬 セナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二次創作小説1

【Zコード】

NZ201Y

【作者名】

七瀬 セナ

【あらすじ】

もし、朝起きたら何もかも失っていたら。
何を感じ何を思うのか。
ただ、それだけの話。
山も落ちも意味もないけれど、積み上げることも崩すこともありません。

(前書き)

二次創作(?)は書くつもりなかつたのですが。

40MPの「パラメタ」を聞いて、歌詞にそつてなんとなーくキー
ボードに思つていたことを走らせただけです。

「どんなに頑張つて積み上げてきたものでも、一度崩せば失えば何
も残らない」

なんとなく、そう思つただけです。

正直、山も落ちも意味もない小説ですが、よかつたら読んでやつて
ください。

朝、スイッチを押すような音で目を覚ました。

いつも通り、何も変わらない部屋。

必需品以外は何もない、殺風景で面白みのない部屋。

俺には、それが一番落ち着けて、一番満足していた。

「……なんなんだ、まったく」

食パンをかじりながら、流れていぐニュースを眺める。

いつも通り。そのはずだつたのだ。

いつものように母親に起こされ、いつものように学校に通うはずだつたのだ。

だが、キッチンには母親はおらず、制服もなく。新築の家のように、何もなかつた。

「……ちょっと、外に出てみるか」

服を着替え、寝癖を直し、喧騒の中に飛び込んだ。

デジタル時計を見ながら、早足で歩いているサラリーマン。

ケータイで時間を確認して、顔に焦りを浮かべながら走つている

学生。

それを見ながら微笑んでいる、車椅子の老人。

何もかもがいつも通りで、いつものように同じことを繰り返して。

繰り返すことで、何かを積み上げて。

そう。たとえば数字の桁を増やすように。

たとえば積み木を積み上げていくように。

それが、全て朝起きたら失つていたとしたら?

もし間違えてマイナスを掛けてしまつたら?

もし間違えて崩してしまつたら?

今の俺のように、脱力感と疎外感を感じるのだろうか。

はたまた、開放感を感じるのだろうか。

そんなことは、なつてしまつてからじやないと分からない。

過ちを犯すか否かは、全て自分が決めることなのだから。

そして、俺の視界は、スイッチを切るような音とともにブラックアウトした。

「…………、起きなさい。遅刻するわよ」

いつも通り、母親の声で目が覚めた。

いつも通り殺風景な部屋。制服も、家族も、当たり前のようこそ

ここにあった。

「…………やれやれ」

俺は、いつも通り用意されていた食パンをかじりながら、流れていくニュースを眺めるのだった。

(後書き)

何も隠すつもりはないんですけど、40mPのファンです
同時に、ボカロ大好きです
久しぶりに、いい歌詞の曲を聴きましたよ、はい
機会があれば、40mさんの曲を自分なりに掌編小説にしたいです
ね、はい
でも、需要あるんかいな

では、また次回

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7201y/>

二次創作小説 1

2011年11月21日16時30分発行